

「初級標準テキスト 冷凍空調技術」第4版第5刷 正誤表 2026.3

頁	行	誤	正
P.9	右下から6行目	合せもって	併せもって
P.10	右下から11行目	飽和蒸気と過熱蒸気との温度差	過熱蒸気と飽和蒸気との温度差 (間違いではないが、より理解しやすい表現に修正します)
P.18	右下から4行目 圧縮仕事	$(h_B - h_A) > (h_B - h_A) > (h_B'' - h_A)$	$(h_B'' - h_A) > (h_B - h_A) > (h_B' - h_A)$
P.62	左下から7行目	低温の冷却媒体（二次冷媒ともいう）として	低温の冷却媒体として *()内を削除
P.69	表6.1下 注1	地球温暖化計数	地球温暖化係数 ※
P.78	右下から4行目	(P.80(2)③参照)	削除する
P.83	左上から1行目 (図7.8の真下)	オイルトラップ	オイルトラップ
P.93	右下から1行目	送れ力率	遅れ力率
P.96	右上から10行目	回転数	回転速度
P.100	右上から3行目	「(4) 過電流継電器 (オーバーカレントリレー)」	「(4) 過電流継電器(サーマルリレー)」
P.101	右上から 13~15行目	接点を表わす小さい二つの丸の右側に棒線を離して書く。またb接点は装置が動作していないとき閉じており、左側につけて書く。	またb接点は装置が動作していないとき閉じている。
P.113	左下から5行目	直動動形	直動形
P.115	左上から12行目	デファレンシャル	ディファレンシャル
P.126	左下から13行目	「外部に放出する。」の後に追加	外部に放出する。(但し、毒性、可燃性の冷媒には使用できない)
P.131	左下から3行目	試験圧力は許容圧力又は	試験圧力は設計圧力または
P.133	左下から13行目	酸素濃度18%	酸素濃度19.5%
P.161	左上から12行目	かなり広い範囲	かなり広い範囲
P.165	左側 例題3の問題	事務室で仕事をしている場合と、工場で作業している場合とで、在室者一人当たりの二酸化炭素濃度を基準にした必要外気量はそれぞれいくらになるか。	事務室で仕事をしている場合、在室者一人当たりの二酸化炭素濃度を基準にした必要外気量はいくらになるか。
	左側 例題3の解答	工場での二酸化炭素濃度は表1.9より事務室の3倍の3000ppm程度の値が許されると考えられるので、1000ppmの場合の約1/3、一人当たり10m ³ /h程度でよい。	左の記載を全削除
P.174	右下から15~16行目	コンタクトファクタ/バイパスファクタ	コンタクトファクタ(CF)/バイパスファクタ(BF) ※
P.180	左上から10、13行目	除去熱量 Φ	除去熱量 Q
P.184	右上から16行目	暖房時間	暖房期間
P184	右下から11行目	最低の設計外気温度の場合について	空調時間帯における最低の設計外気温度の場合について

「初級標準テキスト 冷凍空調技術」第4版第5刷 正誤表 2026.3

頁	行	誤	正																																										
P.187	表3.4 (b)窓ガラス 一番下	単層ガラス+(内側ベネシアンブラインド)	複層ガラス+(内側ベネシアンブラインド)																																										
P.190	右上から1行目	t_0	t_o																																										
P.192	左上から 12~13行目	喫煙者が多い場合や,	喫煙者が多い場合や,																																										
P.198	例題3	P.198例題3 設計条件9)の後に、次の文言を追加する。(条件の補足を追加)	冷房時は取入れ外気の20%が外気温湿度条件のまま取り込まれ(0.2BFと表記)、また暖房時は全風量が外気温湿度条件のまま取り込まれるとする。 ※																																										
P.199	右下から3行目	5179 W	5368 W																																										
P.200	表3.13	数値や記号が間違っている (第4版1刷以降修正済み)	11ヶ所修正(別紙)																																										
		表の上方に次の注記を記載	「表中の数値は、有効数字などの処理過程で表示値と計算値に若干の差が生じることがある」 ※																																										
P.201	左上から1~2行 目	$t_s = t_r + \frac{3.6 \times Q_{SH}}{1.006G} = 22 + \frac{3.6 \times 5179}{1.006 \times 2227}$ $= 22 + 8.3 = 30.3^\circ\text{C}$	$t_s = t_r + \frac{3.6 \times Q_{SH}}{1.006G} = 22 + \frac{3.6 \times 5368}{1.006 \times 2227}$ $= 22 + 8.6 = 30.6^\circ\text{C}$																																										
P.208	左上から 10行目	特徴	特長																																										
P.211	左上から2行目	運転・維持管理	運転・維持管理																																										
P.212	左上から15行目	冷房員荷	冷房負荷																																										
P.234	図5.7	図中の「換気」の表記	「排気」 ※																																										
P.245	左下から12行目	所要動力が大きくなる.	所要動力が大きくなる.(P.233 図5.5参照)																																										
P.282	表6.7 2行目	原価償却費	減価償却費																																										
P.291	右下から12行目	ΔT : 外気温度と中心部の温度差[K]	ΔT : 庫内温度と中心部の温度差[K]																																										
P.291	右下から10行目	h_o : 容器表面の熱伝達と~	h_o : 食品表面の熱伝達と~																																										
P.297	左下から2行目	農林水産省のJAS規格では品温を-18℃以下としている。	運用上は、過去の実績を基に品温-18℃以下としている。																																										
P.298	表2.1	倉庫業法の法改正により令和6年4月1日以降温度区分が変更になっている	<p>冷蔵倉庫の基準、温度帯の区分の法改正</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">旧</th> <th colspan="2">新(令和6年4月1日~)</th> </tr> <tr> <th>級別</th> <th>温度帯</th> <th>級別</th> <th>温度帯</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>C3</td> <td>-2℃~+10℃</td> <td>C3</td> <td>-2℃~+10℃</td> </tr> <tr> <td>C2</td> <td>-2℃~-10℃</td> <td>C2</td> <td>-2℃~-10℃</td> </tr> <tr> <td>C1</td> <td>-10℃~-20℃</td> <td>C1</td> <td>-10℃~-18℃</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">F1</td> <td rowspan="2">-20℃~-30℃</td> <td>F1</td> <td>-18℃~-24℃</td> </tr> <tr> <td>F2</td> <td>-24℃~-30℃</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">F2</td> <td rowspan="2">-30℃~-40℃</td> <td>F3</td> <td>-30℃~-35℃</td> </tr> <tr> <td>SF1</td> <td>-35℃~-40℃</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">F3</td> <td rowspan="2">-40℃~-50℃</td> <td>SF2</td> <td>-40℃~-45℃</td> </tr> <tr> <td>SF3</td> <td>-45℃~-50℃</td> </tr> <tr> <td>F4</td> <td>-50℃以下</td> <td>SF4</td> <td>-50℃以下</td> </tr> </tbody> </table> <p>※この表の変更に伴い、P.299の分類の記述も変更になります</p>	旧		新(令和6年4月1日~)		級別	温度帯	級別	温度帯	C3	-2℃~+10℃	C3	-2℃~+10℃	C2	-2℃~-10℃	C2	-2℃~-10℃	C1	-10℃~-20℃	C1	-10℃~-18℃	F1	-20℃~-30℃	F1	-18℃~-24℃	F2	-24℃~-30℃	F2	-30℃~-40℃	F3	-30℃~-35℃	SF1	-35℃~-40℃	F3	-40℃~-50℃	SF2	-40℃~-45℃	SF3	-45℃~-50℃	F4	-50℃以下	SF4	-50℃以下
旧		新(令和6年4月1日~)																																											
級別	温度帯	級別	温度帯																																										
C3	-2℃~+10℃	C3	-2℃~+10℃																																										
C2	-2℃~-10℃	C2	-2℃~-10℃																																										
C1	-10℃~-20℃	C1	-10℃~-18℃																																										
F1	-20℃~-30℃	F1	-18℃~-24℃																																										
		F2	-24℃~-30℃																																										
F2	-30℃~-40℃	F3	-30℃~-35℃																																										
		SF1	-35℃~-40℃																																										
F3	-40℃~-50℃	SF2	-40℃~-45℃																																										
		SF3	-45℃~-50℃																																										
F4	-50℃以下	SF4	-50℃以下																																										
P.316	右下から5行目	(外気35℃ DB, 70%RH)	(外気35℃ DB, 80%RH)																																										

「初級標準テキスト 冷凍空調技術」第4版第5刷 正誤表 2026.3

頁	行	誤	正
P.318	文献 5)	「初級標準テキスト冷凍空調技術」	「初級標準テキスト冷凍空調技術」, 第2版
P.322	右下から4行目	冷凍機を止めて	冷却を止めて
P.323	表3.4 オフサイクル式の説明	冷却器の運転を止め	冷却を止め
P.326	右上から9行目	工程上の問題から	工程上の制約から
P.336	右上1行目	$q = c_1(t_b - t_f) + f + c_2(t_f + t_a)$	$q = c_1(t_b - t_f) + L_f + c_2(t_f + t_a)$
P.336	右上6行目	f	L_f
P.343	(8)粘度	$\text{Pa} \cdot \text{S}$	$\text{Pa} \cdot \text{s}$

※ 第4次改訂第7刷の書籍は右端に※印がある正誤以外は修正済みです。